

## 令和4年度富士市自衛隊入隊・入校予定者激励会を実施



集合写真

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・本間亮2等陸尉）は2月20日（月）、富士市役所で開かれた令和4年度富士市自衛隊入隊・入校予定者激励会に参加した。

この激励会は同市が主催したもので、海上自衛隊幹部候補生、防衛大学校学生、陸・海・空一般曹候補生、自衛官候補生、高等工科学校生徒に合格し入隊・入校を決めた18人とその家族が参加し、市長や同市自衛隊家族会、同市自衛隊協力会、募集相談員東部連絡会、静岡県防衛協会の会員が見守った。

激励会では、市を代表して市長が「国家の安全を守るとともに災害派遣に従事する任務に臨む上で、健康を第一に訓練に励んでほしい」と挨拶した。また、静岡地方協力本部長は、「Service before self」を覚えてほしい」と伝え、「自分より周りや相手に尽くすことが自衛隊では重要であり必要になっ

てくる。実行することで同期や先輩、後輩と関係を築くことができ、また自身の成長に繋がる」と激励した。

その後、市や協力団体から記念品を贈呈し、最後に入隊・入校予定者を代表して一般幹部候補生として入校予定の近藤弘基さんが「富士市出身者として信頼される自衛官となれるよう心身を鍛え、期待に応えられるよう努力します」と謝辞を述べた。

富士所は、今後も市や協力団体との連携を図り、自衛隊の活動基盤である人材確保と更なる理解促進に向け邁進していく。



記念品贈呈



謝辞

## 静岡・山梨・長野の3地本が相互研修で交流

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 等空佐）は2月20日（月）と21日（火）、静岡地本本部庁舎、静岡募集案内所（静岡市）、富士地域援護センター（御殿場市）において、山梨・長野両地方協力本部との相互研修を行った。

これは、総務・募集・援護業務の担当者がそれぞれ研修や意見交換を行い、今後の業務に役立てようと実施したもの。山梨から16人、長野から6人が参加した。

初日は総務・募集業務担当者が本部庁舎、援護業務担当者が富士地域援護センターにおいて、静岡地本の概要や業務について説明を受け、相互に意見交換を行った。自衛官が民間企業に再就職するための支援を行う援護業務では、静岡県の求職相談施設を活用して部外講師による就職相談やセミナーを開催していること、任期満了で再就職する35歳以上の隊員への求人が豊富なことなどに強い関心が集まり、支援体制充実のため県を越えた連携強化が図られた。

2日目は、静岡市葵区と駿河区を担当する静岡募集案内所を訪れ、自衛官募集業務や広報活動などについて研修を行った。

静岡地本では募集業務のオンライン・デジタル化を進めており、「若者はがきや電話よりもネットの方が気軽。QRコードを付けたパンフレットを地域のコンビニに置いてもらっている」と静岡所の広報官が現場での活動を伝えた。

研修参加者は「実際に現場を見て意見交換することができ、わかりやすかった」「広報官の工夫を知ることができて良かった。自分たちの地域でも参考にしたい」と話し、今後の業務への意欲を見せた。

静岡地本は、今後も他地本との連携を図り、業務改善に努めていく。



広報官との交流



意見交換